

里山活性化推進事業（小別沢） 概要説明資料

事業の概要・方向性

<里山とは>

森林と農地が連なり、人と自然が共生しているような、市街地周辺の優れた景観を有する地域。

例：西）小別沢や南区・清田区の一部

<現状及び背景>

- ・農業の衰退（高齢化・担い手不足等）
- ・人口減少、コミュニティの希薄化
- ・所有地の放棄、景観の悪化
- ・未活用状態の森林
- （人工林少・担い手不足・木材価格安）
- ・森林環境譲与税の創設

<課題>

- ・地域の特性に応じた柔軟な農業振興施策
- ・森林環境譲与税による森林整備促進施策

<方向性>

里山の特性を生かした、森林と農地の一体的な保全・活用策（里山活性化構想）の検討・実施

※西）小別沢をモデル地区として先行着手。事業モデルを確立した後、他地区に展開

<里山のイメージ>

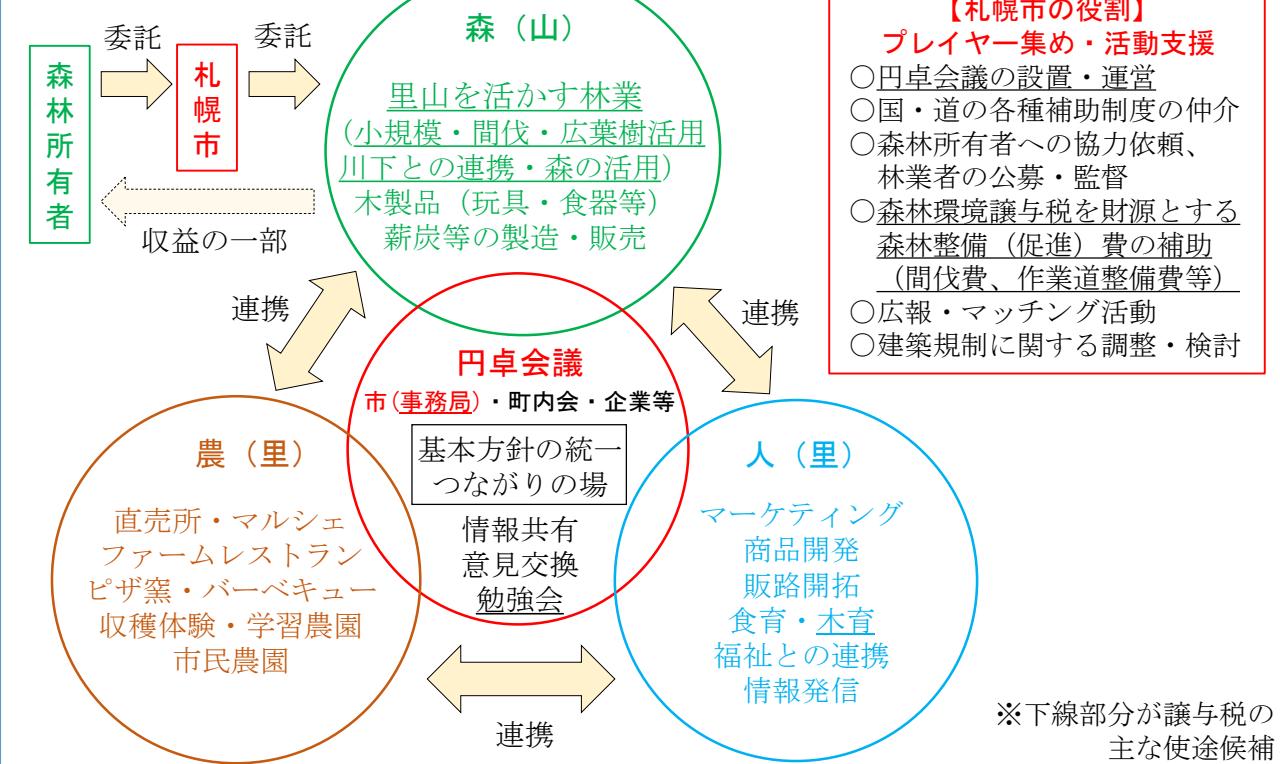


<里山の現況（小別沢）>



札幌市の果たすべき役割

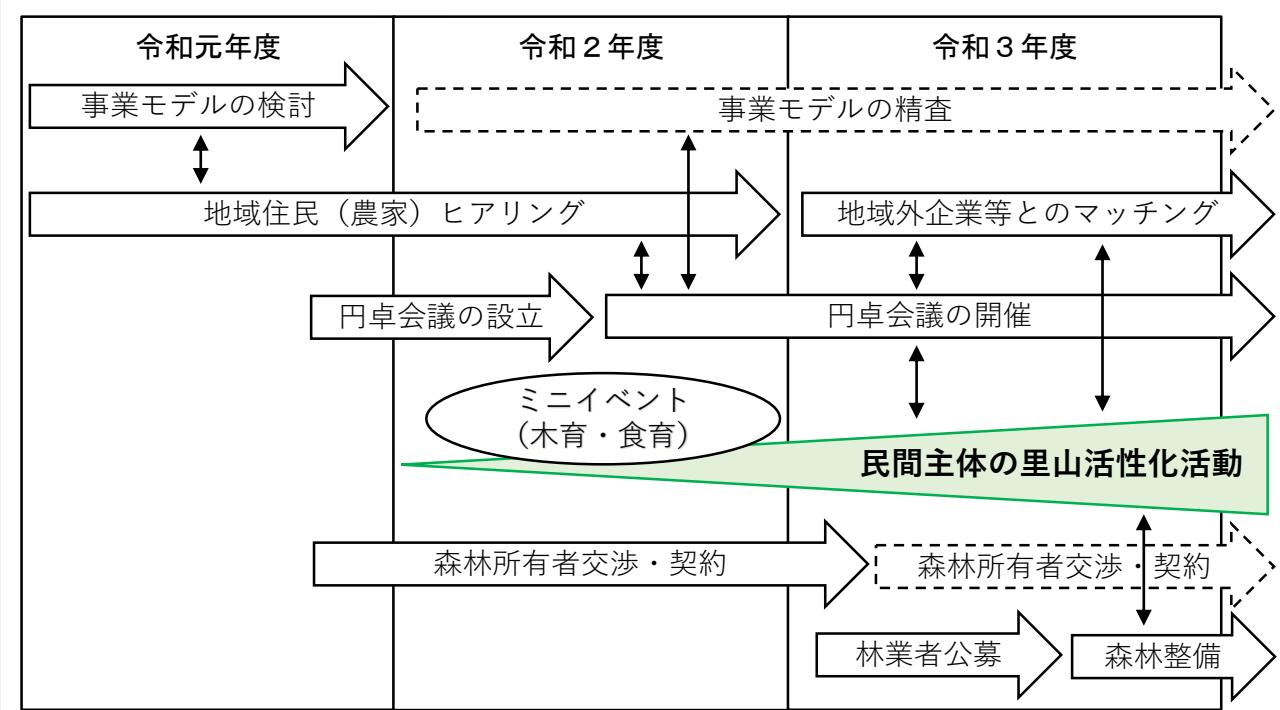
<里山活性化の事業モデル>



<目指す将来像>



<事業スケジュール>



<想定される関係者>

町内会、農業者、林業者、木工製品製造・販売業者、社会福祉法人、NPO法人、JAさっぽろ、森林組合、国）北海道森林管理局、道）石狩振興局、市）関係部局 など